

# 絆

題字  
新潟市教育委員会  
鈴木廣志教育長

新潟市  
青少年育成協議会  
創刊号

●発行●  
平成22年12月17日



政令市移行前の旧新潟市で  
発足した青少年育成協議会が  
今年で設立五〇周年を迎えま  
す。

現在では、政令市移行後の新潟市全域で  
四十五地区にその組織が拡大され、各区の  
育成協議会では、それぞれの地域性を活か  
した多様な活動が注目されています。

その中にある理事会内では平成十八年  
度から委員会制度が設けられ、今後の新潟  
市青少年育成協議会の組織やあり方を検討  
するため、活動を開始しました。

平成二十年度には、子どもの基本的な生  
活習慣に関する保護者の意識アンケートの  
実施などのほか、委員会が課題ごとに役割  
を分担するため、平成二十一年度からは三  
部門からなる委員会が編成され、理事全員  
が各委員会に所属し、より充実した活動に  
向けた検討が重ねられてきました。

こうした中、去る十一月十二日、秋葉区

役所会議室で開催された平成二十二年度の  
会長・事務局長研修の内容についての意見  
交換会では、各地区の事業の情報交換を通  
して、区毎の重点テーマを決めるという新  
しい手法を試みました。

各区、各班別に分かれての情報交換では  
地域性の違いから様々な情報交換ができ、  
また、地域の実情に合った活動例を幾つか  
聴くことができました。

千葉大の明石要一教授の著書「放課後の  
過ごし方で子どもの人格は変わる？」の一  
項に、子どもの健全育成には、家庭、学校、  
地域の役割分担をしよう。学校は朝八時か  
ら午後三時まで子どもの面倒をトコトン見  
る、読み・書き・算術は学校が責任を持つ。  
午後三時から六時までの放課後は地域がト  
コトン面倒を見る、豊かな生活体験を保障  
する。午後六時から翌朝までは家庭がトコ  
トン面倒を見る。基本的な生活習慣のしつ  
けは家庭が責任を持つ。などと提案されて  
います。

私たち新潟市青少年育成協議会も子ども  
達の健やかな成長を願ってたゆまぬ活動を  
続けたいものです。

## 新潟市青少年育成協議会の紹介



副会長  
新藤 幸生

私たちは、青少年の健やかな成長を願い、  
一人ひとりの「夢の実現」及び、子育て真っ  
最中の保護者の皆さんへの子育て応援を目  
指し活動しています。

新潟市での活動は、他の地区よりも早く、  
昭和三〇年代からでした。当時は若者から  
「非行を行う機会を除去する」活動が主で  
あったと思います。街頭補導活動やパト  
ロール等、非行から遠ざける、いわゆる環  
境浄化活動が主な任務でありました。しか  
し、悪さをしないように頭から押さえつけ  
るような取締に疑問がもたれ、現在では規  
範意識や忍耐力を育て、非行に走らない「心  
身ともに健全な」青少年の育成を目指した  
活動が中心となっています。

また、「夢の実現」優秀な人材に育てあ  
げるといふ使命から、子どもたちの生活習  
慣にも注目しています。生活習慣が学力に  
も大きく影響しているという事実が多く  
の関係機関の調査により明確となってい  
ます。さらにその根拠についても解明され  
てきました。

そこで、平成二〇年七月、新潟市内の全  
ての小学校（一四校）の三年生保護者一、  
七四八名のみなさんからご協力を頂き、子  
どもたちの日常生活及び保護者の意識調査  
を実施させて頂きました。専門のみなさん  
から助言を頂く等、集計、分析することで  
様々な問題点が明らかとなりました。

新潟市  
新設小学校3年生の  
基本的な生活習慣調査

調査はきちんと行っていますか  
起床時間や帰宅時間は、決まっていますか  
家族で一日の生活リズムを話し合っていますか  
学習や、テレビ、ゲームの制限はありますか

新潟市青少年育成協議会

特に子どもたちの生活習慣が「親の価値  
観」に大きく影響されている、という実態  
も明らかとなるなど、多くの有用なデータ  
も得られ、このアンケート結果を基に次の  
四つの基本行動を決定しました。①「基本  
的な生活習慣の確立」への支援、②ケータイ・  
インターネットの安全な利用の促進、  
③子どもの遊びへの支援、④親子の会話の  
推進です。非行防止・健全育成の推進には  
様々な組織や団体との連携が要求されてお  
り、行政、学校、PTA、地域子ども会、  
コミュニティ協議会等との関係も深めなが  
ら、非行防止キャンペーン、スポーツ活動、  
自然体験教室、社会奉仕活動（クリーン作  
戦等）に取り組んでいます。この取り組み  
のなかで「親や学校の先生」以外の大人と  
接する機会が多いほど、心の成長に良い結  
果が得られているそうです。

さらに最近の調査により、「中学生と非  
行の関係」では、こうした活動に参加して  
いる中学生、さらには親も積極的に参加し  
ている家庭では、非行の発生率が減少する  
という結果が発表されています。（本誌四  
頁参照）

このような施策を通して、地域の教育力  
の向上を目指し活動しています。



### FROM 北区

#### たくましく育てよう 地域の子供たち ～松浜地区青少年育成協議会～

松浜育成協は今年度で五十周年を迎えました。健全育成部・街頭補導部・環境整備部・調査広告部も充実して活動しています。

健全育成部は年三回、子ども達を引率して屋外に出かけます。七月は五頭山の沢のぼり、十月はサントピアワールド、二月はスキーです。近年、子どもの参加人数が若干減少しましたが、それでも指導員を含めると五十〜七十名程の参加があります。地域の大人と子どもとの交流に力を注いでいます。

街頭補導部はパトロールが中心です。松浜地区は坂が多く自転車の事故が絶えません。六月・九月には夕暮れ時の自転車無灯火・二人乗り防止の呼び掛けを小中PTAと協力して行っています。七月には、関係団体・交番・コンビニエンスストアの店長さん合同の意見交換会を行っています。春・夏の祭りで野宮パトロールも行っています。環境整備部は危険看板の設置と、松浜市内の環境浄化が主な仕事です。毎年一回、地域のゴミ拾い「クリーンウォーク」を行っています。

調査広報部は育成協の活動や地域の出来事を広報するのが目的で、年三回育成協だよりを発行し回覧しています。松浜小・中学校の児童生徒にも配布できるようにになりました。現在九十二号まで発行しています。

以上の他に全体事業として、「ラジオ体操祭」「サマーキャンプ・海辺の森」「ハマナス駅伝」の企画、運営に携わり活動しています。

●あいさつは目には見えない心の握手(秋葉)

●あいさつがきれいな花をさかせます(坂井輪小2年生)

### FROM 東区

#### 藤見地区 青少年育成協議会の紹介

藤見育成協の大きな行事の一つに三世代交流運動会があります。毎年幼児から六十歳以上の中高年まで多くの方から参加頂いておりますが、昨年は千名を越えました。校区内の三十二の自治・町内会を地区別に四つのグループに分け、対抗試合として、優勝チームには優勝旗と優勝杯を授与しています。幼児の玉入れやカード合わせレース、シニア世代も交じっての尻圧測定、中高年や婦人たちの大玉おくり、運動会定番の綱引きや混合リレー、全員参加のパン食い競争など競技種目も幼児から熟年世代まで楽しめる内容で、秋色の下、休日を家族全員で楽しんで頂ける行事です。今年度は第二十回の節目の大会であり、内容の充実を目指し、役員一同、張り切っております。

このほか、毎年八月に、胎内市にある新潟県少年自然の家で合宿して行う育成研修会では、カヌーの体験オリエンテーリング、みんなどで作るカレーも好評で、多くの小中学生から参加して頂いております。



●会う人にいつもこやかさやわが挨拶(岩室)

●おはようのその一言が地域の笑顔を作ります(秋葉)

### FROM 中央区

#### 各地区 青少年育成協議会の様子

中央区内の青少年育成協議会は、小学校四校(浜浦小、関屋小、豊照小、有明台小)、中学校七校(鳥屋野中、白新中、寄居中、舟栄中、宮浦中、上山中、山潟中)の合計十一校の参加により構成されています。

各青少年育成協議会(以下育成協と略)の活動をアンケート結果からみると、①校区内パトロール十校、②広報誌の発行、クリーン作戦各九校、③スポーツ大会七校と続き、講演会、安全マップの作成各三校、花の植栽、交通安全教室の開催、救急救命講習会、安全看板・標語の掲示各二校の他、親子レクリエーション大会、ウォークラリー、自主防災訓練、卒業・もちつき大会、キャンプ、親子S.Lの旅、キャンプ、町内会行事への参加など多彩な活動が行われています。

新潟市が政令指定都市移行後に、小学校や中学校を単位として作られた地域コミュニティ協議会ともお互いの活動が重ならないよう、調整が図られ、役割分担がなされ、地域での協力体制が強固になってきています。

今後とも、子どもたちの健全な発育を願い、家庭、青少年育成部、地域、学校と共に、学校行事への積極的参加、地域行事への親子参加、非行防止への取り組み、家族内の会話の推進、生活習慣の確立など、いろいろな活動に取り組みしていきたいと考えています。皆様のご理解とご協力をお願いします。

●あいさつで地域の輪と和が生まれます(秋葉)

### FROM 江南区

#### 大江山地区 青少年育成協議会の紹介

江南区は亀田・横越・曾野木・両川・大江山の五地区で構成されています。信濃川・阿賀野川・小阿賀野川に囲まれた自然豊かな環境です。また、各地区で貴重な遺跡が多数発見されています。江南区の育成協議会では五地区の会長、事務局長が集まり交流会を開き、意見交換をして親睦を深めています。

五地区の中で大江山地区の活動を紹介します。大江山では三つの専門部があり、広報部は育成協だよりを年に三回発行しています。

環境整備・補導部は夏休み中の校区内巡視活動とすくね桜並木のクリーン作戦を行っています。クリーン作戦は、小中学生を中心に幼児からお年寄りまで大勢の参加があります。また、所々に小中学生が制作した看板を立てました。

健全育成部は新春スポーツ大会を行っています。一月の寒い日曜ですが、小中学生と大人と一緒になわとび・かるた・百人一首・アジャタバスケットをして楽しんでいます。



●爽やかなそのあいさつでリフレッシュ(藤見)

●あいさつの良い木戸中学校区(朝・昼・夕(校内・校外)でのあいさつを)(木戸)



### FROM 秋葉区

#### 各地区 健全育成会との連携

本区の育成協は、新津地区九健全育成会によって構成されています。プロックにはそれぞれ会長・町内会長又は自治会長の他に、三部会の部長の全四十四人の理事によって活動が推進されています。

各プロック育成会は、重点事項の達成を目標として各種活動を展開しておりますが、育成協の活動としては、懇親部会は十一月に人権擁護委員会と連携して「秋葉区青少年健全育成・人権啓発推進大会」の開催。指導部会は子ども達の夏休み前に「地域活動実施研修会」、環境部会は四月に「区一斉クリーン作戦」を実施しています。

特にクリーン作戦は、新津地区全体を巻き込む大作業で、昭和五十六年から三十年間に渡って継続されています。現在、参加人数約九千人、ゴミの収集量は十五トン、子ども達の参加は、小中学生合わせて三千人以上です。

今後の課題は、小須戸地区に育成組織が無いことから、区全域の事業展開が為されないことにあります。組織立ち上げの支援に努めたいものです。また、他組織と連携し、青少年の基本的生活習慣の確立支援も大きな課題です。

●あいさつは心をつなぐ虹のかけ橋(南浜) ●あいさつをすれば広がる地域の輪(湯東)

### FROM 南区

#### 各地区 青少年育成協議会の様子

南区には、十一の育成協があり、ほとんどの地区が地元の大祭「しろね大風合戦」のプレイベント「こども風合戦」の運営に関わっています。それ以外にも、それぞれ地域性を生かした活動を行っています。今回はその中でも特色のある活動を紹介します。

##### 茨菅根地区育成協議会

○小学校と連携して「あいさつ運動」を行い、標語やキャラクターを児童から募集しカレンダーを作成して一般家庭に配布しています。

##### 小林地区育成協議会

○小林小学校を会場に「こぼ小祭り」と題して保護者や地域の方々と共に児童が星の観覧会を行いました。スクリーンで星の説明を受けた後、屋上に用意した天体望遠鏡五台で実際に星の観察をし、結果は大盛況でした。

##### 味方地区育成協議会

○小・中学生を対象に「いきいき子ども塾」と題し阿賀町の廃校舎を利用して、一泊でキャンプを行いました。火を熾して炊事をしたり川で泳いだりと普段の生活とはかけ離れた自然の中の活動が好評で、年々参加者が増えていきます。

##### 月潟地区育成協議会

○PTAやゴミ協と連携し「みんな育てる地域の子ども」と題し、中学校ランチルームを会場に小・中学生の意見発表の後、講師をお招きして講演会を開催し、地域一体で育てていくについて関心を高めています。

●なじらねハローこんにはみんなであいさつほくらの下町(舟栄) ●あいさつは笑顔とともに元気よく(大形)

### FROM 西区

#### 地域の援助と PTA O Bに支えられて 黒埼地区青少年育成協議会

本地区は一中学校四小学校、約九二〇〇世帯の住民で構成されています。二十一年度の主な活動を中心に紹介します。活動方針は「地域の子どもは地域で守ろう」です。

##### ◆二〇〇九 黒埼地区健全育成大会

(地区PTA連絡協議会との連携事業)  
十二月五日(土)、会場は黒崎市民会館・地区内学校代表五名による意見発表・若葉賞の表彰(ボランティア活動の個人、団体)・子どもたちによる地域での活動発表・地区PTA連絡協議会の講演会。

##### ◆青少年の居場所作り

(会館ロビーで、第二・四土曜日十三時三十分～十五時三十分)  
中学生と地域の大人と長テーブルにコリアや鉛など用意して楽しくお喋りして交流を図る。

##### ◆信濃川クリーン作戦

黒埼地区成人の集い  
(二十二年一月九日 土曜日)

新成人の「自分たちによる成人式」を地区公民館と連携しながらサポートする。



### FROM 西蒲区

#### 各地区 青少年育成協議会の様子

##### 岩室地区青少年育成協議会

○宿泊研修「めだかの学校」：七月開催。地区内二小学校四・六年生が対象。一日目は野球場にテント設営・夕食づくり・夕食後読み聞かせ。二日目は朝食後ちまき作り・金魚つかみ取り大会。他に少年の主張発表会等実施。

##### 西川地区青少年育成協議会

○ふれあい合宿：十月開催。二泊三日の通学合宿。地区内三小学校五・六年生が対象。県立青少年研修センターを会場に・大学生の協力も得てワークシヨップ・ハロウィンパーティー・野外炊飯を実施。他に広報紙発行等。

##### 湯東地区青少年育成協議会

○「おまつり広場」：地区マラソン大会…スタッフとして参加し行事盛り上げに一役買っている。他に夏休み地区巡回パトロール(公園・商店等)・健全育成啓発看板の補修・社会環境調査を実施。

##### 中之口地区青少年育成協議会

○餅つきと工作体験：十二月開催。小学生親子が対象。昨年度は百四十人が参加。工作でスライム作りも体験。外に「新春大いに夢を語ろう会」(二月開催)・新生児宅に雪橇の苗木贈呈・広報紙発行・夜間巡回等々を実施。

##### 巻地区青少年育成協議会

○ウォークラリー「さがそう地域の宝物」：地区内五小学校四・六年生対象。五年目になる。今年度は漆山小学校区が会場。他に健全育成講演会(昨年度講師は夜回り先生こと水谷修氏) 広報紙発行・情報交換会等実施。

●「ありがとう」笑顔の花が一つ咲く(石山中学校 1年5組 小池こなつ) ●家庭の絆は挨拶から(山の下)



### 全体研修会

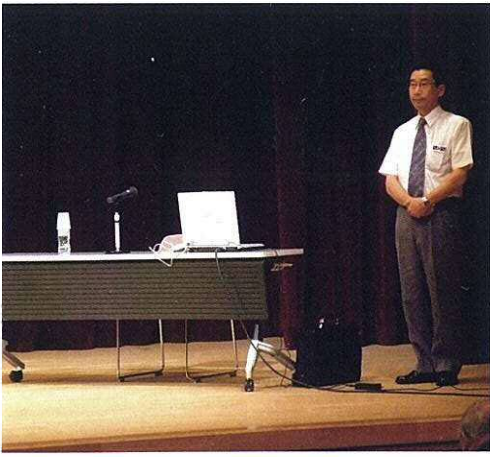


副会長

白倉 政 男

平成二十二年年度全体研修会が九月十八日（土）、黒崎市民会館で講師に新潟県警察本部の貝瀬三夫様をお迎えして開催されました。

貝瀬三夫様は、平成二十一年から新潟県警察本部生活安全部少年課課長補佐をされておられます。少年が抱える諸問題に精通されておられ、新潟市内の少年犯罪の実態や育成協議会の地域における今後の活動についてアドバイスをいただきました。講演会の内容を紹介します。



少年非行の概要は次のようである。

平成二十一年度中の県全体の特徴は、総数は7.7%減少したが、刑法犯の犯罪少年は増加した。刑法犯少年の検挙人員は七

年連続減少した。刑法犯検挙人員に占める少年の割合は23.7%であり2.1ポイント減少している。最も多かった年は50%近くを占めていた。犯罪の中にいる少年の割合は年々減少している。初発型非行の検挙数は、全体の70.1%で0.3ポイント増加しており、万引き・自転車盗・オートバイ盗・占有離脱物横領の割合が増えている。

平成二十二年上半期の特徴は、中学生の犯罪数が多くなり、中学生と高校生の犯罪数が逆転した。十二歳までにしっかりとした指導が大切である。

次に、地域における効果的な活動についてだが、警察では「非行防止教室」「少年相談や立直り支援活動」「中学生・高校生・少年警察ボランティアの人達と合同でチラシ配布活動」「地域ふれあい活動」などを行っている。

青少年育成協議会などの団体が行う効果的な活動は科学警察研究所の小林寿一氏の研究では、次のような分析がなされている。

これは、二〇〇〇年に全国公立中学校の校区を単位として九十二地域の中学生10,110名（男子5,014名、女子5,096名）と保護者9,180名からアンケートに答えてもらい分析したものである。

地域で行われている「お祭りや盆踊りなどの行事」「野球・サッカーなどのスポーツ活動」「公園の清掃や花を植えるなどの環境美化活動」「ハイキングや田植えなど自然に親しむ活動」「たこやわら細工などを自分で作る活動」「お年寄りの家庭や施設でのボランティア活動」の六活動の参加

率と非行との関係を調べてみると、男子では、環境美化活動に対する参加率の高い地域ほど、非行が少なくなっている。女子では「お祭りや盆踊りなどの行事」を除いた五つの活動の参加率の高い地域ほど、非行が少なくなっている。この結果から環境美化活動が最も有効である。

また、保護者の地域活動参加率が高い地域ほど非行が少なくなっている。

さらに「青少年の二一スにあった活動」が行われている地域では非行が少なくなっており、「指導者」が少ない地域ほど非行が多くなっている。地域で行事を計画する場合、指導者自身が参加しても楽しいと思う企画をすることが大切である。このことから、新潟市青少年育成協議会が各地域で行っている活動は非常に有効である。



以上が講演会の概要です。

最後に参加者からの質問に丁寧に答えていただき、盛会のうちに講演会は終了しました。

### あとがき



副会長

高橋 八十二

近くの小学校で、子どもたちの登校時間になると、先生と子どもたちが大きな声で「おはようございます。」とあいさつを行っております。

しかし、集団登校なので区域ごとに集まりますが、子ども同士のあいさつはありません。私の地域だけなのか？校内でも子どもたち同士のあいさつはあまり見かけません。

私が交通安全委員をやっているときに、子供たちに「おはよう」と声をかけても返事があるのは三分の一位です。知らない人に言葉をかけられても返事をするという風潮があるからなのでしょうか。それとも、地域環境の問題なのでしょうか。最近、特に見られることは、「かくれる自我」しほみゆく公一であります。言葉を変えると権利義務のバランス感覚不足といつてよいでしょう。みんな一人ひとりが、傍観的な態度を捨て、地域環境をよくするために何をなすべきか真剣に考えましょう。

今、生活に行き詰まったり、孤独に耐えられなかったりした人達が事件を起こすケースが一部で起きています。経済的に困っているのは事実としても、突き詰めれば、家庭崩壊が原因ではないかと考えます。

朝起きたら、「一番に「おはようございます。」とあいさつをしましょう。家庭は三秒で変わっていきます。

事務局 ● 新潟市教育委員会 生涯学習課 青少年室